

平成27年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月28日

上場会社名 アクモス株式会社
 コード番号 6888 URL <http://www.acmos.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画室長
 四半期報告書提出予定日 平成27年5月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 飯島 秀幸
 (氏名) 中川 智章

上場取引所 東
 TEL 03-5217-3121

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年6月期第3四半期の連結業績(平成26年7月1日～平成27年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期第3四半期	3,154	15.5	38	△33.7	41	△31.3	△26	—
26年6月期第3四半期	2,730	37.4	58	288.4	59	521.7	32	—

(注) 包括利益 27年6月期第3四半期 △11百万円 (—%) 26年6月期第3四半期 38百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年6月期第3四半期	△2.73	—
26年6月期第3四半期	3.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期第3四半期	2,904	—	1,485	—	—	49.6
26年6月期	2,503	—	1,506	—	—	58.9

(参考) 自己資本 27年6月期第3四半期 1,440百万円 26年6月期 1,475百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年6月期	—	0.00	—	1.00	1.00
27年6月期	—	0.00	—	—	—
27年6月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年6月期の連結業績予想(平成26年7月1日～平成27年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,000	11.8	△35	—	△30	—	△100	—	△10.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年6月期3Q	10,215,400 株	26年6月期	10,215,400 株
② 期末自己株式数	27年6月期3Q	515,900 株	26年6月期	515,900 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年6月期3Q	9,699,500 株	26年6月期3Q	9,699,500 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成27年3月31日、以下「当第3四半期」という。)における我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善がみられたものの、個人消費の低迷や急速な円安の進行による輸入価格の上昇、新興国経済の成長鈍化などのマイナス要因もあり、不安定な状況が続いております。

当社グループの情報技術事業においては、IT投資の回復に伴いシステムの再構築や統合、クラウドへの移行等の需要が増加し、回復傾向が継続しておりますが、案件増に対応する技術者の確保が困難で、採用環境が厳しさを増しております。

このような状況の下、当社グループでは前期から開始した3ヵ年の中期経営計画の2年度目として、前期の年度テーマ「再生」に基づき取り組みを始めた施策を引き続き実行するとともに、当期の年度テーマである「成長」を目指す基本方針の下、グループ各社が連携し積極的な戦略展開を行なっております。

当第3四半期の売上高は前第3四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成26年3月31日、以下「前第3四半期」という。)に比べ423百万円増加し3,154百万円(前第3四半期の売上高は2,730百万円、前年同四半期比15.5%増)となりました。営業利益は38百万円(前第3四半期は営業利益58百万円、前年同四半期比33.7%減)、経常利益は41百万円(前第3四半期は59百万円、前年同四半期比31.3%減)、四半期純損失は26百万円(前第3四半期は四半期純利益32百万円)となっております。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

(ITソリューション事業)

当第3四半期では、当期の年度テーマである「成長」を目指し、成長分野のクラウド構築やタブレット開発等の技術レベル向上のため、助成金を活用した社員の研修や社内勉強会を実施してまいりました。当社の事業所がある首都圏及び茨城地区では顧客の需要に対応した技術者の確保が難しくなっていることから、受注案件拡大のため社員の技術レベル向上を図るとともに、採用活動の強化と、協力会社の開拓を進めております。

当社では首都圏を主要市場としてクラウドサービスやモバイルサービスの展開をするため、人的資源を投入しております。先端技術分野での提案型営業展開を行っているソリューション統括センターに当期より首都圏センターを新設し、茨城地区で展開していた成長分野のサービスを首都圏においても本格的に営業展開する体制とサービスメニューの整備を行いました。

消防指令システムの案件につきましては、当第3四半期において、工事進行基準を適用していた4案件の納品が完了致したことにより528百万円の売上を計上しました。また、これら消防指令システムの納品等により売上高は前年同四半期より27.9%増加いたしました。なお、消防指令システムの案件については引き続き対応すべき業務が残っており、連結損益計算書に売上原価として従来受注損失引当金として計上していた金額との差額29百万円、連結貸借対照表に63百万円の製品保証引当金を計上しております。このため営業損失が前年同四半期より19百万円増加いたしました。

ASロカス株式会社では、利益を重視した受注活動や開発、制作現場のPM(プロジェクトマネージャー)を支援するPMOの充実にも取り組みました。当第3四半期の業績においては、本年が自治体が行う統計調査の年に当たることから統計調査システムや関連業務の受注が増加したこと、消防指令システムに係る当社との取引等により売上高は前年同四半期より20.3%増加しました。また、社内生産が増加し、外注費を抑制することが出来たことから原価率は前年同四半期に比べ5.6%減少し、増収増益となりました。

ACMOSソーシングサービス株式会社では、企業向けのシステム開発、運用案件が堅調に推移いたしました。病院内情報システムの運用については事業拡大のため、人材の採用と教育に注力してまいりました。特に医療情報技師の資格取得支援を進めております。当第3四半期においては、売上高は前年同四半期比4.9%減、営業利益は26.1%減となりました。

当第3四半期のITソリューション事業の売上高は2,975百万円(前第3四半期の売上高は2,425百万円、前年同四半期比22.6%増)、営業利益71百万円(前第3四半期は営業利益41百万円、前年同四半期比73.8%増)となっております。

(ITサービス事業)

株式会社エクスカルは、規格認証サービスの需要低下により厳しい事業環境が続いております。Ethernet規格に対応した電気計測サービスの開始、スマートハウス向け通信プロトコルであるECHONET Lite関連のサービス展開を進め

ており、平成27年3月にはUSB3.0 Embedded Host の認証試験、プレテスト、技術サポート等の関連サービスを開始いたしました。しかし、売上の伸びは鈍く、第三者検証についても単発の案件の受注に留まっております。売上高は前年同四半期比29.9%減、営業損失も11百万円増加いたしました。

サービスメニューを見直して定額サービスを拡充し、テストラボとしてのサービスに限らず、アライアンスを活用した顧客企業の開発支援などを行うサービス体制の構築を進めております。

株式会社ジイズスタッフは、新規に採用した従業員の業務レベル向上と戦力化のため教育を進めるとともに、ターゲットを明確にした営業戦略により受注活動を進めました。営業体制の再構築も進めておりますが、当第3四半期では新規顧客の受注獲得が少なく、また全般的に小規模の案件が多くなったことから売上高は前年同四半期比15.2%減少いたしました。従業員の採用により営業費用が増加したこともあり、営業利益は前年同四半期比71.6%減少いたしました。

当第3四半期のITサービス事業の売上高は288百万円(前第3四半期の売上高は357百万円、前年同四半期比19.5%減)、営業利益1百万円(前第3四半期は営業利益45百万円、前年同四半期比96.5%減)となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べ401百万円増加し、2,904百万円となりました。これは受取手形及び売掛金が930百万円増加した一方、現金及び預金が433百万円、仕掛品が31百万円減少したことが主な要因であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べ422百万円増加し、1,419百万円となりました。これは、未払費用が114百万円、長期借入金が43百万円、未払金が58百万円減少した一方、買掛金が138百万円、短期借入金が483百万円、賞与引当金が71百万円増加したことが主な要因であります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ21百万円減少し、1,485百万円となりました。これは少数株主持分12百万円の増加及び四半期純損失26百万円並びに配当金9百万円が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月3日付の「平成27年6月期 第2四半期決算短信」にて公表いたしました平成27年6月期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等
該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,232,700	799,164
受取手形及び売掛金	484,547	1,414,895
商品	26,076	16,068
仕掛品	81,753	50,270
繰延税金資産	24,433	19,277
その他	68,431	66,423
流動資産合計	1,917,942	2,366,099
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	238,446	238,061
減価償却累計額	△131,144	△136,336
建物及び構築物(純額)	107,302	101,724
工具、器具及び備品	160,886	132,634
減価償却累計額	△91,499	△82,202
工具、器具及び備品(純額)	69,386	50,432
土地	68,836	68,836
有形固定資産合計	245,525	220,992
無形固定資産		
のれん	136,711	91,887
ソフトウェア	84,961	113,347
ソフトウェア仮勘定	23,636	14,254
その他	1,481	1,335
無形固定資産合計	246,791	220,824
投資その他の資産		
投資有価証券	30,943	35,281
その他	62,061	61,333
投資その他の資産合計	93,004	96,615
固定資産合計	585,321	538,432
資産合計	2,503,264	2,904,532

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	111,025	249,461
短期借入金	35,000	518,359
1年内返済予定の長期借入金	58,344	58,344
未払金	142,266	83,905
未払費用	246,841	132,536
未払法人税等	18,839	36,742
賞与引当金	16,635	87,955
受注損失引当金	34,212	—
製品保証引当金	—	63,964
その他	96,072	31,407
流動負債合計	759,237	1,262,676
固定負債		
長期借入金	117,755	73,997
退職給付に係る負債	75,993	59,015
繰延税金負債	28,428	15,186
その他	15,055	8,536
固定負債合計	237,232	156,734
負債合計	996,470	1,419,411
純資産の部		
株主資本		
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△349,445	△385,638
自己株式	△53,911	△53,911
株主資本合計	1,466,175	1,429,982
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,963	10,995
その他の包括利益累計額合計	8,963	10,995
少数株主持分	31,655	44,143
純資産合計	1,506,794	1,485,120
負債純資産合計	2,503,264	2,904,532

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
売上高	2,730,972	3,154,842
売上原価	1,994,836	2,342,238
売上総利益	736,136	812,603
販売費及び一般管理費	678,010	774,047
営業利益	58,126	38,556
営業外収益		
受取利息及び配当金	671	560
保険配当金	3,334	3,358
その他	1,807	3,308
営業外収益合計	5,813	7,227
営業外費用		
支払利息	3,963	4,482
その他	28	115
営業外費用合計	3,991	4,598
経常利益	59,949	41,185
特別利益		
子会社株式売却益	4,562	—
特別利益合計	4,562	—
特別損失		
固定資産除却損	97	491
特別退職金	4,384	—
事務所移転費用	—	1,400
リース解約損	—	1,504
減損損失	—	20,529
特別損失合計	4,482	23,926
税金等調整前四半期純利益	60,029	17,258
法人税、住民税及び事業税	32,120	40,115
法人税等調整額	△8,264	△9,211
法人税等合計	23,855	30,904
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	36,174	△13,645
少数株主利益	3,678	12,848
四半期純利益又は四半期純損失(△)	32,495	△26,493

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成27年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	36,174	△13,645
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,740	2,031
その他の包括利益合計	2,740	2,031
四半期包括利益	38,915	△11,613
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,236	△24,461
少数株主に係る四半期包括利益	3,678	12,848

- (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項
(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,373,030	357,942	2,730,972	—	2,730,972
セグメント間の内部売上高又は振替高	52,847	—	52,847	△52,847	—
計	2,425,878	357,942	2,783,820	△52,847	2,730,972
セグメント利益	41,238	45,029	86,268	△28,141	58,126

(注) 1 セグメント利益の調整額△28,141千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△28,209千円、その他の調整額67千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の上場維持に係る費用等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成27年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額(注)	合計
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,866,778	288,063	3,154,842	—	3,154,842
セグメント間の内部売上高又は振替高	108,558	—	108,558	△108,558	—
計	2,975,337	288,063	3,263,401	△108,558	3,154,842
セグメント利益	71,691	1,550	73,241	△34,685	38,556

(注) 1 セグメント利益の調整額△34,685千円には、報告セグメントに配分していない全社費用△28,902千円、未実現利益消去△6,199千円、その他の調整額416千円を含んでおります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社本社の上場維持に係る費用等であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ITサービス事業」セグメントにおいて、事業活動から生ずる損益が継続してマイナスであるため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、第3四半期連結累計期間においては20,529千円であります。